

や文化的環境が必然的に退廃する」とイリツチは言い切る。彼によれば、エネルギー消費が臨界をこえると、社会的な不平等と非効率と人間の無力とを増やすばかりとなる。「公共の運輸機関の速度が時速十五マイル（二十五キロ）をこえて以来、公正が低下し、時間と空間の不足が顕著になった」というわけだ。私たちは、このような状況から何とか抜け出さなければならない。それには、自動車優先の交通を改め、もつと速度の遅い交通手段が道路を有効に使えるようにするほかない。

その代表選手は、言うまでもなく自転車である。自転車は安全度が高く、エネルギー、空間、時間は最小限で済む。自転車が動きやすい道路と空間をもつと与えること—今後の道路政策は、ここにポイントをおきたい。道路はこれまで、自転車や歩行者を開放してきた。が、これからの道路は方向を百八十度転換し、自転車や歩行者がもつと動きやすいものにしなければならない。自転車のペダルを悠々と踏みながら移動できる街づくりこそ、新しい居住空間づくりとなる。

バイクで自由を

精一杯楽しんで欲しい

中国放送ラジオディレクター

砂田 義典

RUBという言葉をどう存じだろうか？

Rich Urban Biker と云々。

経済も社会も疲弊してきたアメリカで、少しはお金もある年のいった人が自分自身を再発見するためにバイクを見直し始めた。

こういう人が増えてきたのだそうだ。

確かにバイクは他人に影響されることもなく、自分が思うように走れ、走れば風になり空気になり自由を満喫できる。更に、乗る人

自身がバイクの魅力をどこまでも引っ張り出してゆける。

バイクは割りに簡単に乗れるものだから、中学生や高校生の時についてい無免許運転してしまったという人もいるかもしれない。だが、取っ付きの良さとその深い魅力をフルに味わうことはまったく違う。

先に結論を云えば、バイクは自分自身を豊かにし深めることなしに、その良さを自分の

ものとし、そのダイレクトな味わいを楽しむことは出来ない。

押せば写るカメラと高度な仕上げのマニユアル・カメラとの違いがわかるだろうか？

最近ネイキッド・バイク、つまり、妙にレーシングしたり飾り付けたりしない、バイク本来のフォルムと走り追求したバイクが増えている。いいことだと思う。確かに他人をビュンビュン追い抜いて行く快感も捨てたものではないが、それよりも、バイクと呼吸を合わせながらじっくりと走ることがバイクの原点だと思うからだ。

ネイキッドとは真裸であるということ。つまりは素材そのものであり、これに味わいとか風格とかを付与してゆくのは、君自身の役割なのだ。

バイクはそのスピードで写真における望遠レンズのように遠くのものに引き寄せ、その軽快さでワイドレンズのようにあらゆるものをつかまえて触れることを可能にしてくれる。自分がバイクと一体になった時、バイクは自分の感性そのものとなり、エンジンの遅く軽快な鼓動は自分の心臓のそれとまごうほどだ。

しかし、つい忘れてしまうのはその難しさ、危うさだ。

免許をとっただけで自分は百点の運転技術を持ったと思ったら落とし穴にはまるだろう。

実はそれから大切なことで、エンジンの有効な回転域とトルクを確認し、スムーズに車